

## 分 科 会

### 第一分科会 地域の子育て支援を考える

話題提供： 田口 信一（母子生活支援施設 白鳥寮長）

野村 貴子（子育て広場「きらら」代表）

土屋美恵子（NPO法人「保育サービスひまわり」前理事長）

第一分科会は、地域の子育て支援を考えるということで3名の話題提供者においでいただいた。母子生活支援施設白鳥寮で家庭支援センターおよび子ども在宅サービス事業を幅広く実践しておられる寮長の田口信一氏、特定非営利活動法人「保育サービスひまわり」前理事長の土屋美恵子氏、子育て広場「きらら」代表の野村貴子氏である。それぞれの地域における活動の経緯を話していただいた。いずれも民の動きであるが、必要とされる支援の内容を汲み取り、援助を求めている地域

の方々へ、質の高い支援を模索して、即実行された内容である。これから子育て支援に携わろうとする人たちへの提言として、「できることから始めていくこと」が第一歩であるということ強調された。パワーあふれる実践の紹介は、この近隣の地域だけによりいっそう強く受講生たちの心に響いたようである。子育て支援は多くの人たちとの連携をもつことでよりいっそう支援の輪が広がっていくということが再認識できた機会であった。

（佐々 加代子）

### 第二分科会 保育施設における子どもへの適切な対応を考える

ワークショップ講師： 門馬 乙魅（CAPユニット）

荒川美智代（CAPユニット）

この分科会では、CAP（Child Assault Prevention）のワークショップを体験した。子どもの虐待や事件から子どもを守る取り組みの一つで、子どもに「嫌な時は嫌だ」と言える力、あらゆる暴力から自分を守る力を養うプログラムである。幼児を対象としたプログラムを実際に体験し話し合った。参加者は26名であった。

プログラムでは、安心・自信・自由と権利について繰り返し伝えていくもので、安心・自信・自由の大切さを参加者一同あらためて認識し、子どもに安心・自信・自由を感じてたくましく生きていける保育者の関わりを見直すことに役に立った。子どもへのことばのかけ方一つでも感じるものが違うこと、安心の大切さ、子どもの心に寄り添う

保育の大切さもあらためて共感するものであった。また、このプログラムは、自ら守る力の一つに仲間を作ることが上げられている。保育者が保育現場において仲間を作り実践していくことにもつながる。CAPプログラムについて知ることができ、保育においても子どもに力を育てる取り組みが必要と参加者が一様に共感することができた。ただ、テーマからは内容がずれており、保育施設で集団保育の中で見落とされがちな対応の問題点について事例を挙げて検討することを期待してきたとの参加者もあり、この点については、今回の内容をステップにして次回に発展させたいと考える。

（中山 正雄）

### 第三分科会 「気になる子」の保育を考える

話題提供： 小林 優子（社会福祉法人 わらしこ保育園職員）